



2025年6月19日

各 位

会 社 名 株式会社 ミダックホールディングス  
 代 表 者 名 代表取締役社長 加藤 恵子  
 (コード番号: 6564 東証プライム・名証プレミア)  
 問 合 せ 先 取締役経営企画部長 高田 廣明  
 電 話 番 号 053-488-7173

## 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、自社の資本コスト、資本収益性および市場評価などの現状分析を改めて行い、今後の方向性について決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 現状分析について

当社グループは、2023年3月期から2032年3月期までを対象としたミダックグループ10年ビジョン「Challenge 80th」及び中期経営計画を策定しております。2027年3月期までの第1次中期経営計画は、「成長加速のための基盤づくり」という位置づけのもと、積極的な成長投資を推し進めております。

このような中、当社グループの株主資本コストは約7～9%と認識しており、これに対し、ROEは過去5年間に於いて継続的に株主資本コストを超えて推移し、目標とする15%の水準も維持しております。特に、2025年3月期は、オーガニックグロースの実践において、管理型最終処分場「奥山の杜クリーンセンター」における廃棄物受託量の増加が当社の収益性を押し上げ、これに伴い売上高純利益率の向上が顕著であったことで、ROEは前年よりも大きく改善しました。加えて、売上高・利益ともに過去最高を更新し、株式市場からも一定の評価を得られたことで、株価純資産倍率(以下、PBR)も前年比で改善しました。

なお、直近5年間の経営指標等の推移は下表のとおりであります。

| 項目                       | 2021年3月期 | 2022年3月期 | 2023年3月期 | 2024年3月期 | 2025年3月期 |
|--------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 売上高(百万円)                 | 5,701    | 6,381    | 7,771    | 9,547    | 10,905   |
| 営業利益(百万円)                | 1,883    | 2,264    | 2,755    | 3,538    | 4,534    |
| 経常利益(百万円)                | 1,848    | 2,188    | 2,692    | 3,377    | 4,450    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益(百万円) | 1,018    | 1,284    | 1,685    | 1,907    | 2,862    |
| 純資産額(百万円)                | 5,522    | 9,536    | 10,983   | 12,789   | 15,452   |
| 期末株価(円)                  | 2,450    | 2,741    | 2,155    | 1,572    | 2,070    |
| ROE(%)                   | 20.6     | 17.1     | 16.4     | 16.1     | 20.3     |
| PBR(倍)                   | 11.8     | 7.93     | 5.42     | 3.41     | 3.72     |
| 営業利益率(%)                 | 33.0     | 35.5     | 35.5     | 37.1     | 41.6     |
| 経常利益率(%)                 | 32.4     | 34.3     | 34.6     | 35.4     | 40.8     |

(注) 期末株価は株式分割を遡及した調整後のものを表記しております。

## 2. 今後の方向性について

今後のPBR向上には、資本の効率的な活用により各事業の成長性を高めるとともに、株主との対話を通じて、当社に対する理解促進に努めることが必要であると考えております。

ROEについても、引き続き経営上の重要指標と位置付けてまいりますが、長期的な成長を見据えた新規廃棄物処理施設の設置計画もあり、継続的な内部留保の蓄積によって、中長期的にROEが低下することが予想されます。これに対し、下記の取組みを推進することで収益性の改善を図り、ROEが株主資本コストを継続的に上回ることを目指してまいります。

### (1) 第1次中期経営計画の着実な達成

第1次中期経営計画の最終年度にあたる2027年3月期に売上高100億円、経常利益50億円を目指しております。本計画の達成においては、オーガニックグロースの実践、特に管理型最終処分場「奥山の杜クリーンセンター」における廃棄物受託量の確保が必要不可欠であります。最終処分場の受託量拡大を事業ポートフォリオ戦略における優先事項として位置づけ、第1次中期経営計画を着実に達成することで収益力の強化とROEの向上を図ります。

### (2) 継続的な株主還元の実施

当社では、企業価値の向上によって株主利益を増大させることを最重要課題の一つとして認識しております。利益配分につきましては、経営基盤や財務体質の強化を図りつつ、安定的な配当の継続的实施を基本としております。

2025年3月期期末配当については、2025年2月14日付の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」で公表したとおり、普通配当を10円から14円へ増配することといたしました。本増配は、業績推移及び財政状態等を勘案したうえでの株主還元であり、引き続き経営成績の伸長に見合った成果の配分や配当金額の継続的な増額を検討してまいります。

なお、2026年3月期の期末配当については、上記基本方針及び財務体質の状況等を総合的に勘案したうえで、1株当たり期末配当は18円と増配を予想しております。

### (3) 積極的なIR活動の実施

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るためには、適時に情報を開示し、株主との信頼関係を構築することが重要であると考えています。株主や投資家との対話（面談）を通じ、経営方針やビジネスモデル、社会貢献活動等の取り組みを説明し、当社を深く理解していただくことで長期の安定株主の構成に繋がるものと考えています。株主や投資家に対しては、決算説明会を半期ごとに1回開催するとともに、要望に応じ個別面談を実施しています。また、英文開示の充実やサステナビリティレポートのブラッシュアップなど、積極的な情報発信に努めております。

今後につきましても、当社の事業および業績、サステナビリティに関する取り組み等、IR情報の拡充と積極的な情報発信の実施並びに対話を継続することで、企業価値の向上に努めてまいります。

今般の現状分析で認識した当社の課題を踏まえ、事業の成長、資本収益性の向上ならびに株主資本コストを上回るROEを継続的に実現することによる株価向上などを念頭に置き、事業活動を推進してまいります。

以上